

統合開発環境「Eclipse」の普及・促進に向け 利用目的に応じたコーディネートを行っていく

2005年4月にソフトウェア開発・実行環境である「Eclipse Platform」の企業規模での利用の普及・促進を目的とした「Eclipse Japan Working Group」が設立され、その事務局をNTTコムウェアが勤めていますが、はじめに、Eclipseについてご説明いただけますか。

堂山 Eclipseは、オープンソースの統合ソフトウェア開発環境です。現在、Java開発者を中心にワールドワイドで急速に利用が拡大しており、今後、ソフトウェア開発ツールの共通プラットフォームの標準になると予想されています。また、アーキテクチャが全て公開されており、誰でもプラグイン^{(*)1}を開発できるので、Eclipseの機能を拡充するプログラムはプラグイン形式で増加し、現在は900本を超えています。

*1：システムに機能を追加する際に提供される小さなプログラム。

Eclipse Japan Working Groupではどのような活動を行っていますか。

高木 Eclipse Japan WGは、Eclipse Foundationに加盟している日本企業が、日本でのEclipseの普及啓蒙と、企業レベルでの導入・普及に必要な要件の議論を目的としたWorking Groupです。Eclipseの利用促進に向けて、Eclipseに関する研究会 / 勉強会 / セミナーを開催しています。例えば、Eclipse 3.1の新機能RCPを紹介するセミナーや、企業規模で標準化すべき機能（メトリクス^{(*)2}等）を議論する研究会などです。活動状況はWebサイト (<http://www.eclipse.org/japanwg>) で公開しています。

*2：高品質なソフトウェア構築のためのソフトウェアの様々な特性を可視化する客観的な数学的尺度。

Eclipseの利用が広がっていますが、その理由として、どのようなことがあげられるでしょうか。

堂山 高度な統合開発環境を構築するのに必要な基本



NTTコムウェア㈱
プロジェクト管理統括部
技術開発部門
部門長
堂山 真一氏



NTTコムウェア㈱
プロジェクト管理統括部
技術開発部門
担当課長
高木 浩則氏

機能を共通プラットフォームとして用意し、ツールはプラグインとして実装するというのがEclipseのアーキテクチャの基本です。このアーキテクチャをオープンにして、誰もがプラグインを開発できるようにしたことがEclipseの最大の特徴です。つまり、プラットフォームをオープンにすることによってニュートラルであることが保証されていますので、プラグイン開発者は安心して有償のプラグインを開発することができるのです。

高木 Eclipseは、Windows、Linux、Solaris 8、AIX、HP-UX、Mac OSなどのさまざまなOSに対応しています。Windows版の利用はもちろんのこと、Linux版の利用も拡大しています。また、ファイルシステムのアクセスウィザードもサポートしているので、使用に際してはOSを意識する必要はありません。

今後、どのような活動を行っていきますか。

堂山 既に900本以上のプラグインが公開されていますので、これらを適材適所で利用できるよう、コーディネートしていきたいと思っています。